

平成23年度能美市地域福祉活動計画

第3回アクションプラン推進協議会 会議記録

日時：平成23年11月9日（水）午後7時30分～9時23分

場所：辰口健康福祉センター ホール

出席者：高塚亮三（福祉施設等）、西川方敏（市ボランティア連絡協議会）、井上徹（市民生委員児童委員協議会）、喜多泉（子育てに関わる団体）、吉田良（市自治公民館協議会）、清水奈津美（子育てに関わる団体）、武田裕幸（福祉施設等）、田中邦一（学識経験者）、

欠席者：宮田明（市自治公民館協議会）、村上洋子（学識経験者）

事務局：宮本会長、斉藤事務局長、新川、谷、向、西出、海道

1. 開会の挨拶

高塚アクションプラン（以下「AP」という）推進協議会長

ついこの間まで季節はずれの暑さが続いていたが、立冬を境に、急に冬の寒さとなり身体の調子は如何か。この会議が久しぶりの気がしないでもないが、年度末に向けて調整しないとイケないことがあろうと思うのでよろしく。

2. 報告及び協議

- ・各 AP 委員会からの報告について・・・資料1 参照

地域福祉人づくり委員会

高塚：6月以来、毎月会合を持ち、5回委員会を開催した。殆どが、福祉教育について、行ったり来たりの意見も多い訳だが、やはり福祉教育というものに対するイメージが人それぞれに違っているところがあり、すっきりとさせる方が良いのか、非常に猥雑なところを切り捨てることなく、どの様にまとめていこうか悩ましく思っている。委員会としては、他の3つの委員会に委員が参加し、幾らか意見を申し上げる機会も得た。もう一つ、協議会として考えておかねばならないことは、4つの委員会があり、市地域福祉活動計画を推進しているが、そこでいろいろな議論がなされたことが、どう社協や市へ反映されていくのかが明確でないとも指摘もある。社協としては、少しずつは改善してきているが、せつかくの議論を地域福祉計画及び地域福祉活動計画に入れるという運営のあり方を視野に入れながらやっていく必要があると思う。市地域福祉計画が大詰めを迎えつつあり、来年度より新しい計画が始まるわけだが、そういうところをきっちり見ながら、活動計画が有機的に連携できるようなものであれば良いと思う。人づくり委員会や他の委員会の関係性や、体系図で見るAP委員会の整合性について、あらっと思うところもある。（後ほど話してみたい）また、最後の締めの報告会をどうするかということで、2月の下旬2週間ぐらいが良いとの意見、期間と時期について、概ねそのような話だった。

地域福祉支えあいのしくみづくり委員会（以下「支えあい委員会」という）

喜多：10月20日に開催し、人づくり委員会の沢山の委員さんにも来て頂き、意見

を頂いた。話しの中心になったのは、今の親子サロンの状況を見て、親子サロンの場所を一つにするとか、開催日を増やすとかということで、提言の確認をさせて頂いた。[提言書の読み上げ]

即座に叶うとは思っていないが、ずっと温めてきたものであり提言します。ファミリー・サポート・センター（以下、「ファミサポ」という）の報告も資料1の通り。

私たちのボランティアセンター（以下「ボラセン」という）づくり委員会

西川：5回目の会合を10月20日に開催し、報告会について下記のことを話し合った。報告会の実施は了解。期間は2週間程度が妥当。若しく10日程度。これも昨年度を踏まえて協議した。また、ボラセンづくり委員会の分科会の内容については、ボラセンの周知を目的とした体験型を企画し、ボラセンそのものを機能させてみることにする。活動紹介・情報発信・自由談義・喫茶コーナーなどを10:00～15:00の時間帯で行う予定。お昼を挟んで、長めにやってみたいと話合った。会場は、辰口健康福祉センターを希望する。辰口健康福祉センターの使用可能なスペースを委員の間で検討している状況でもあり、条件が満たされてからではなく、提言書に沿って了解を頂き、検討ができることから前向きに取り組みたい。

地域福祉ネットワーク（以下「NW」という）づくり委員会

井上：10月24日に開催。人づくり委員の方が傍聴し、2人の方にアドバイス頂いたが、難しい話で解釈できなかった。毎回申し上げるが、地域福祉委員会は分かりにくい。大長野町も今回、地域福祉委員会が出来たが、実際に地域福祉委員会が活動しているところは限られている。何をすればよいのか分かりにくい状況。よって、分かりやすいQ&A作りに入っているが、話が空回りしている。前回の会議は、特に西任田町を参考に、特別新しいことをやろうとしても出来ないの、話し合いを行うことから始めればよい。しかし、何か具体的に実施しないと、ただ話し合うだけでは難しいのではないかと結論だった。フォーラムに良い案が出てこないの、試行錯誤している。いきいきサロンをやっている方が集まって、いろいろな意見交換するのはどうか。ただその場合、町会長に参加してもらえるか、いつもの女性メンバーしか集まらないのではないかと悩んでいる。過去2回、地域福祉委員会について、西任田町・泉台町の事例紹介後に意見交換・ディスカッションしたが、同じ傾向も如何なものか、出来れば新しい形ができないか、次回検討する。

意見・質問

田中：提言書の常設の親子サロンについて、「有償スタッフで」と書いてあるが、泉台町でも買い物ボランティアを無償でやっている。しかし利用者側が、無料は心苦しく気の毒に思う、有料が気楽だと、最近件数が減ってきている。“有償”というのは、子どもを預ける人がスタッフにお金を払うという事か？

喜多：親子サロンはファミサポとは違い、預かる場所ではなく、親子で一緒にやっ

て来て過ごす場所。入場無料。しかし充実した内容で継続するためには、予算を付けて、スタッフにはバイト程度の報酬を支払わなければならない。

田中：来る方は無料ということだ。

西川：来週、ボラセンづくり委員会があるが、委員にも提言書を見てもらおうと思っている。同じような人の集まる場所を作ろうと考えているものだ。

喜多：そこがボラセンの提言書とダブっている。また、場所もここ辰口健康福祉センターと書いた。それは親子がここの場所をよく知っているからであるが、実を言えば、どこでも構わない。条件が合い、空いている施設があればどこでもよい。でもここ辰口健康福祉センターは、今すぐにでも使用できそうに思い明記した。

田中：利用者は近在の方に限られないか？

喜多：そのようなことはない。親子づれは車で移動している方が多いので、根上・寺井地区からも来る。

清水：現在の辰口地区の親子サロンには根上地区の方も来ている。

田中：そうであるか。事務局では検討されたのか？10月20日と記述されている。

会長：今、初めてお聞きしたので、これから検討に入るところである。

喜多：皆さんに見て頂いた上で、報告するつもりであった。

高塚：それでは、次に、今年度の報告会について話し合いたい。

・地域福祉活動計画4年目における市民への報告の機会について・・・資料2

事務局：資料2の説明

高塚：報告会の開催期間については、各委員会よりの意見が出ている。人づくり委員会が2週間。支えあい委員会が2週間。ボラセンづくり委員会が2週間（昨年度並み）。NWづくり委員会も2週間でよい。また、「地域福祉委員会のつどい」もプロジェクトの中に入れるのか、どうかも検討しないといけない。さらに、社協の事業もオープンにしていくつもりなのか。

事務局：資料を更に説明。4つの委員会の分科会の他に、期間に含めて企画する事業や取組みを説明。

西川：地域福祉委員会のつどいは、各町会・町内会の方が参加して行うものであり、このイベントの一環としてやることで、更に多くの市民に周知することになるので、他の市民の方々も参加できるのではないかと思う。逆に、地域福祉委員会の方も、地域福祉活動計画の他の取組みをも知ることになるかもしれない。少し盛り込み過ぎかも知れないが、そのようなメリットがあると思われる。

井上：報告会と別に、地域福祉委員会のつどいを開催すると、短期間の間に、同じような話を2回せねばならないように思う。結局中心になる人は同じなのだから、地域福祉委員会は、社協に任せて、いきいきサロンをテーマにしようかとも思う。オープンいきいきサロンは2年間実施したので、今年度もそのようにすると見に行く人がいるかどうか？という心配もある。いきいきサロン中心にしようかどうか、今後検討していく。

高塚：地域福祉委員会のつどいをNWづくり委員会の中に入れていないことが、少し疑問に思うところである。

事務局：地域福祉委員会のつどいは、昨年度、NWづくり委員にも呼びかけてある。

西川：NWづくりということであれば、能美市高齢者・認知症在宅ケア推進会議も一つのNWであり、一般市民からすると、NWづくりは守備範囲が広く見えてしまう。

井上：NWづくり本来の意味がなかなか分からない。若い人から高齢者まで、連携づくりが本来のNW作りだろうと思う。

高塚：期間は、2月下旬でよいか、NWづくり委員会の意向次第だと思うが。

会長：地域福祉委員会のつどいを入れる云々は別にして、講演会のある2月19日（日）から3月3日（土）でどうか。

吉田：地域福祉委員会のつどいも一緒に総合的にしたらよいのではないかと、一部がいきいきサロン、二部が地域福祉委員会をテーマにするとか、検討すればよい。

井上：まなびフェスタと混同する人がいたので、少し離れた方がよいと思う。

吉田：昨年度の人づくり委員会のサンバがよかった。ふれあいが大切。

会長：大きなイベントがあるならば、取り込むほうがアピール度が強い。

高塚：3月にあまり食い込むと後の年度末にも響くので、3月にかからず早いほうが良い。4つの合同委員会もやらないといけないと思うが、如何か。

西川：昨年度、全員が参加して話し合ったので、継続したほうがよい。発展的な意見もあり、話し合いは必要だと思う。

高塚：やはり、全体AP委員会が締めになるように思う。

西川：3月3日（土）は、ひなまつりだが、全員に呼びかけて都合がつくか。

喜多：支えあい委員会は2箇所（2日間）土・日に子育て支援のイベントをやりたい。

事務局：まとめると総合的に18日（土）～3月4日（日）でどうか。また、各委員会より要望を出してもらうこととし、12月9日（金）までに事務局へ報告してもらうこととする。（全員了解）

高塚：会場については、市内各地で開催する分科会形式でよろしいか。辰口健康福祉センターにウエイトがかかりそうに思うが、各委員会で調整する。

また、内容についても、3月4日（日）に全体AP委員会を行うことですので、各分科会の詳細等は、昨年度のチラシを参考に、分科会名・内容などを今後検討する。全体AP委員会のメッセージもこれでよいかと思う。

事務局：今後の予定は、チラシ作成（1／27全戸配布）の期限もあり、次回会議に確認していただくことにする。

高塚：市民の地域福祉・ボランティア活動の様子を自由に見学・参加できる機会への要望はないか？昨年度の13のプログラムは妥当か？調整が必要かと思う。

井上：昨年度のプログラム5のオープンいきいきサロンは、2回目ということで参加者が少なかった。今回は更に少ないと思うので、行わないでもよいかと思う。

西川：寺井高校との連携は、昨年度は2年生と共に講演が聴けてよかったと評価を得ているものであり、今年度も寺井高校側は受入れ可能。市ボラ連の会員研修として継続的に実施していきたいと、講師の選定等話し合っている最中である。

事務局：ジュニアボランティアクラブの体験、福祉協力校の活動紹介、企業ボラセミナーも新しい試みであり企業を巻き込みたい。いきいきサロン、親子サロンなどのオープン化もあるが会場はまとめてもよいかとも思う。市民防災ネットワ

ークの研修も含みたいと考えている。

高塚：これを各AP委員会に持ち帰って、日時・場所、イベントの大きさなどを頭に入れて検討し、調整していくことが必要。会場確保も難しい。あまりAP委員会の分科会が重ならないほうがよいと思う。

喜多：時間的にも調整する。土・日も考慮して、18（土）19（日）で行いたい。

西川：辰口健康福祉センターの施設としての活用も考えたいので、こちらを希望した。

高塚：人づくり委員会とボラセンづくり委員会の合同でやりますか？

西川：より多くの方に来て頂き、お茶でも飲んで話し合ってもらえれば良いので、それでも結構だと思う。検討したい。

高塚：市民防災ネットの研修会も今年初めてであり、大きなものとなろう。

吉田：町会長などは自主防災などに力を入れており、関心を持ってもらえる。地域福祉委員会の取組みとも重ねてもよいのではないか。それぞれの町内のやり方を発表してもらってもよいかもしれない。

高塚：全体AP委員会についても、先ほども確認したが、実施する。また、報告会の名称についてであるが、昨年度と同じでよろしいか。

西川：毎年度変わると市民が分からなくなるので、平成23年度「春まちぼかぼかプロジェクト」でよい。（全員了解）

事務局：主催は能美市地域福祉活動計画AP推進協議会・能美市社協、後援が能美市を確認した。（全員了解）

3. 今後の各AP委員会等の日程について確認

＊地域福祉人づくり委員会支えあいのしくみづくり委員会

・・・11月18日（金）10時～ 寺井地区公民館

＊地域福祉NWづくり委員会

・・・12月1日（木）19時30分～ ふれあいプラザ

＊私たちのボランティアセンターづくり委員会

・・・11月16日（水）19時～ 辰口健康福祉センター

12月21日（水）19時～ 辰口健康福祉センター

＊地域福祉支えあいのしくみづくり委員会

・・・12月5日（月）13時30分～ 辰口健康福祉センター

4. その他

事務局：連絡事項

①能美市の障害者福祉に関するアンケート結果報告書について（市福祉課よりの情報提供）前回の回収率53.5%、今回の回収率52.4%

②ふれあい福祉ウィーク（障がい者週間記念事業として、ふれあいスタンプラリーと、地域（まち）で障害を考える集い）の紹介

③能美市地域福祉計画の2次計画の策定委員として、高塚AP推進協議会会長が出られる。高塚会長を通じて、意見のやり取りが出来るようにする方向。

高塚：11月10日（木）14時から第2回会議に出席する予定。

喜多：最後に支えあいのしくみづくり委員会からの提言書について、このAP推進協

議会での確認ということによろしいか。

高塚：実際には、理想的なことを書いてあり、工程表が必要になってくるだろう。対象をどこにもって行くかということも必要なのではないかという気もするが、これだけの総花的なものなので、総論賛成・各論反対ともなろう。ちょっとこれだけ盛り込むのがよいのかどうか、無理ではないかと思うが、

喜多：ひろば的なもので、親子が集い、ずっとそこにある場所が必要であり、中途半端なことではいけないと思う。時間がかかってもよいから、始める際は必要なものを全て盛り込んでスタートしたい。元気な人は何処へでも選択し行くことができるが、それができない人には、抛り所となる場が必要。提言に盛り込んだ程度のサロンやひろばは、県内外にたくさんある。ただ、スタートするには時間的に準備期間が必要だと思う。

会長：これから検討をする段階だが、調整のためにお聞きする。実施の時間帯は？

清水：現在の親子サロンは10時～13時30分だが、昼食後のほうが話が弾み、名残惜しそうに帰宅しているので、少し延ばして15時30分までが希望。

会長：市との関係もあり、次回1月の会議に骨子ができれば提示したい。

井上：長野県長野市にも障害のある1歳までが自由に親子で遊べる場所があった。

喜多：行ける時に常に開いていることが重要。色々な状況に対応するには、常に置くことが重要で、休日にも開いていることが、父親も巻き込める、また父親同士の学びの場になるため、大きなメリットになる。

会長：子育て支援センターとのすみ分けは必要かどうか。

喜多：子育て支援センターは、専門職として様々なことを提供し経験させてくれる場所として大切で必要だと思う。ただ、子育て支援センターのあの狭い場所で、できないことを、ひろばに持ってきてやることは可能だと思う。

西川：子育て支援センターが広いものであれば一緒にできるものか？

喜多：一緒にできる。子育て支援センターと広場もある、併設のところも多くある。

会長：子育て支援センターが出張して来てもらうこともあるか。

喜多：そのような場合もある。一緒に絡んでいければ良く、常設とスペースと人がポイントである。

次回 開催日：平成24年1月12日（木）午後7時30分～

〃 会場：辰口健康福祉センター

5. 閉会の挨拶

西川 A P 推進協議会副会長

遅くまでの協議御礼。7時のニュースで、生活保護世帯数が戦後の混乱期を超えたとのこと。戦後は今より、社会福祉制度が細かく整っていなかったが、疎開やUターンしても生活できたことを考えても、地域での互助・共助は今よりしっかりしていたのではないか。しかし、現代は月1万人ずつ増加している。また、TPPについても関税や24の分野で非関税障壁を無くすことであるが、片方で制度をこわし、社会保障で吸い上げる流れがある。またその逆に地域福祉の流れとして、全て社会化するのではなく、自分達の活力を取り戻す流れが

ある。何を変わらずに残すべきか、何を変化させていかねばならないのか、今一度考えてみたい。変えてはいけないものはある。守らねばならないものもある。でも変化していく中で、新しい事象に対応していかなければならないこともある。ややこしいが、常設の親子サロンもこの変化の中で必要となったものであろうかと思う。これらをAP委員会に持ち帰り、伝え検討していきたいと思う。